

## 6 大気環境関係データ

### ■概要

平成14年度における二酸化窒素、浮遊粒子状物質、ベンゼン等の年平均濃度及び環境保全目標の達成状況等は次のとおりです。

#### (1) 二酸化窒素

過去10年継続して測定を行っている測定局での年平均濃度は、一般局が0.023ppm、自排局が0.034ppmであり、一般局、自排局ともに横ばいまたはゆるやかな減少傾向にあります。

全ての測定局での環境保全目標の達成状況は、一般局で91.9%、自排局で62.2%でした。

#### (2) 浮遊粒子状物質

過去10年継続して測定を行っている測定局での年平均濃度は、一般局が0.030mg/m<sup>3</sup>、自排局が0.036mg/m<sup>3</sup>であり、一般局、自排局ともに減少傾向にあります。

全ての測定局での長期的評価による環境保全目標の達成状況は、一般局で45.3%、自排局で27.3%でした。

#### (3) 光化学オキシダント

全ての測定局で環境保全目標を達成しませんでした。

また、光化学スモッグ注意報の発令回数は11回でした。

#### (4) 二酸化硫黄・一酸化炭素

年平均濃度は低い水準で推移しており、全ての測定局で長期的評価による環境保全目標を達成しました。

#### (5) ベンゼン等有害大気汚染物質

有害大気汚染物質(19物質)のうち環境保全目標が設定されているベンゼンは、道路沿道13地点のうち9地点で、一般環境14地点の全地点で、固定発生源周辺4地点の全地点で環境保全目標を達成し、トリクロロエチレン・テトラクロロエチレン・ジクロロメタンは、調査22地点の全地点で環境保全目標を達成しました。

## ■窒素酸化物データ

### 6-1 二酸化窒素の環境保全目標達成状況の推移

